

若山牧水歌碑

所在地 長野県南佐久郡川上村樋沢 石梨（村の記念品）の下

入りゆかむ

千曲の川の

みなかみの

峰 仰ぎ

みれば

はるけ

かりけり

牧水詠 旅人書

碑陰

大正十二年本村に
おいて詠める漂泊の
歌人若山牧水生誕
百年を記念して建立
する

揮毫は牧水の長子である

昭和六十年十一月

川上村



若山牧水歌碑

所在地 長野県北佐久郡川上村大深山 馬頭尊の横

泥草鞋踏み入れて其処に酒をわかす

この國の 囲炉裡 なつかしきかな

牧水詠旅人書

碑陰

大正十二年若山牧水当地に於て詠める牧水

生誕百年を記念して 騎松本森金壽

白峰会建之

昭和六十年十二月

以下十八名列記(省略)



若山牧水歌碑

所在地 長野県南佐久郡川上村大深山 馬頭尊の横

泥草鞋踏み入れて其処に酒をわかす

この國の囲炉裡なつかしきかな

牧水詠旅人書

碑陰

大正十二年若山牧水当地に於て詠める牧水

生誕百年を記念して 歌詞は牧水子息旅人書

白峰会建之

昭和六十年十一月

以下 十八名列記（省略）

若山牧水歌碑

所在地 長野県南佐久郡川上村梓山 金峰山神社隣

この国の寒さを強み家のうちに

馬引き入れて ともに寝起す

牧水詠旅人書

碑陰

大正十二年本村において詠める漂泊の歌人

若山牧水生誕百年を記念して建立する

揮毫は牧水の長子である

昭和六十年十一月 川上村



若山牧水歌碑

所在地 長野県南佐久郡川上村梓山 金峰山神社隣

この国の寒さを強み家のうちに

馬引き入れてともに寝起す

牧水詠 旅人書

碑陰

大正十二年本村において詠める漂泊の歌人

若山牧水生誕百年を記念して建立する

揮毫は牧水の長子である

昭和六十年十一月 川上村



若山牧水歌碑

所在地 長野県南佐久郡川上村梓山 町田市民自然村 入口

見よ下にはるかに見え

流れたる 千曲の川ぞ

音も聞えぬ

碑陰

文字なし

牧水詠 旅人書

平成二年四月吉日 建立



若山牧水歌碑

所在地 長野県南佐久郡川上村梓山 町田市民自然村 入口

見よ下にはるかに見えて
流れたる 千曲の川ぞ
音も聞えぬ

牧水詠 旅人書

平成二年四月吉日 建立

碑陰

文字なし





若山牧水歌碑

所在地 長野県南佐久郡南牧村市場 海ノ口馬市場跡

見よ下にはるかに見えて

流れたる 千曲の川ぞ

音も聞えぬ

牧水

右側面

平成六年五月吉日
南牧村教育委員会



若山牧水歌碑

所在地 長野県南佐久郡南牧村市場 海ノ口馬市場跡

見よ下にはるかに見えて

流れたる 千曲の川ぞ

音も聞えぬ 牧水

右側面

平成六年五月吉日
南牧村教育委員会

(注) 碑の隣に「海ノ口馬市場跡」の大きな碑が建っている



若山牧水歌碑

所在地 長野県南佐久郡南牧村野辺山 長野山脈 銀河公園内

わが行くや 見る 限りなる
霜の野の すすき 枯れ伏し
眞しろき野辺を 牧水

わが袖の 触れつつ 落つる
路ばたの すすきの 霜 は
音立てにけり 牧水

人いまだゆかぬ 枯野の今朝の
霜を 踏みて わがゆく
ひたに眞直に 牧水

野末なる山に 雪見ゆ
冬枯の 荒野を 越ゆと
うち出でて来れば 牧水

はりはりとわが 踏み裂くや
うちわたす 枯野が なかの
路の水を 牧水

枯れて立つ 野辺の すすきに
結べるは 氷にまがふ
あららけき霜 牧水

大空の 深きも なかに
従えたる 峰の たかきに
雪降り にけり 牧水

若山牧水は昭和三年（一九二八）静岡県なる沼津千本松にて逝去せしものなれど
歿年に到るまでほぼ全国を徒歩にて跋涉するとする旅をいつくしみし生涯なりき
当地に来渉せしは大正十二年十月二十八日出発 富士裾野を経て山梨県長野県を
めぐり十一月八日松原湖で当地に到りたるものにて同十一日川上村大深山より十文字峠を
登り来りしものなり 後の「若山歌集」による紀行文にまとめ 世に遺せし



る当地旅中の作にいかにも牧水が
を私は望むものなり 牧水孝旅人誌之

り 平成六年五月吉日
南牧村教育委員会

若山牧水歌碑

所在地 長野県南佐久郡南牧村野辺山 JR野辺山駅近く 銀河公園内

わが行くや 見る限りなる
霜の野の すすき枯れ伏し
眞しろき野辺を 牧水

わが袖の 触れつつ落つる
路ばたの すすきの 霜 は
音立てにけり 牧水

人いまだゆかぬ枯野の今朝の
霜を 踏みて わがゆく
ひたに眞直に 牧水

野末なる山に雪見ゆ
冬枯の 荒野を 越ゆと
うち出でて来れば 牧水

はりはりとわが踏み裂くや
うちわたす 枯野が なかの
路の氷を 牧水

枯れて立つ野辺のすすきに
結べるは 氷にまがふ
あららけき霜 牧水

大空の 深き もなかに
聳えたる 峰のたかきに
雪降りにけり 牧水

(注) 八角塔の第八面には次のページの文が書かれている

わが行くや見ろ限りなる
雨相の野のすすきお伏し
し無いろき野をむす水

わが袖のぬかっつ落つろ
路ばたのすすきの雨相は
まき立てにつり せき水

人いまだゆかぬ雨野の今朝の
雨相を踏んで山すゆく
ひたに真直むに せき水

野末なる山に雪見や
冬枯の荒野を起りと
ふち出でて来れは せき水

はりほりとわが踏とどろきや
うちれたす 雨野の
路の氷を せき水

おいて立つ 雨野のすすきに
結べるは 氷にまがふ
あらうけき雨相 せき水

若山牧水は昭和三年（一九二八）静岡県なる沼津千本松にて逝去せしものなれど／
歿年に到るまで ほぼ全国を 徒歩にて跋涉するとする旅をいつくしみし生涯なりき／
当地に来渉せしは大正十二年十月二十八日出発 富士裾野を経て山梨県長野県を／
めぐり十一月八日松原湖より当地に到りたるものにて同十一日川上村大深山より十文
字峠を／経て 秩父にくだるまでの旅を後の「木枯紀行」なる紀行文にまとめ世に遺せ
し／ものなり

今回碑に刻み記念とされたる八首はすべてその八日より十一日に到る当地旅中の作
にていかに牧水が／この高原の清雅澄明に心打たれしか以て諒されむ事を私は望むも
のである 牧水長子旅人誌之／

この面の真中の下に次の日付の文あり

平成六年五月吉日

南牧村教育委員会

大空の深きもなかに
簀々たる 秋のたかき
雪降りにけり 雪水

若山秋水は 昭和三年二月に靜岡県なる沼津十本浜に造せしものなりと
 當年に到るまでほゞ全國に往來して既濟するとする旅をいひしなり 生涯なりき
 当地に永滞せしは 大正三年十月より公武部 奥富士裾野をきて山梨県に飯野県を
 めぐる 奥山公松原湖より当地に到りたるものにて 同十一日に上村大深山より中文名峰を
 きて鶴穴にくだるまでの旅を 後日一本橋紀行に在る既行文にまよめ 世に遺せし
 ものなり
 今う回碑に刻み記念せしむるは首尾をみて 其の合はりし日に到る当地松木の作といひに松水ヶ
 の名原を清瀬澄明にわたるにこれ餘さぬ事も知ら 望むものなり

[illegible]

宣統六年五月吉日
南牧村教育委員會



若山牧水歌碑

所在地 長野県岡谷市湊四十五三三 小坂観音院境内

佛法僧佛法僧と

なく鳥の声を

まなつつ飲める

酒かも

牧水

碑陰

昭和六十三年文化の日

彫和会



若山牧水歌碑

所在地 長野県岡谷市湊 4-15-22 小坂観音境内

佛法僧佛法僧と

なく鳥の声を

まねつつ飲める

酒かも

牧水

碑陰

昭和六十三年文化の日

形和会

内蔵音



若山牧水歌碑

所在地 長野県塩尻市広丘町原新田 歌碑公園内

うす紅に葉はいち早く萌えいで、
咲かむとすなり山ぞくら花 牧水

碑陰

昭和三十三年九月七日牧水没九回忌

広丘歌碑保存会建之

協力者

百瀬重雄

吉江親正

塚田吉治

台石町野守



若山牧水歌碑

所在地 長野県塩尻市広丘町原新田 歌碑公園内

うす紅に葉はいち早く萌えいでゝ
咲かむとすなり山ざくら花 牧水

碑陰

昭和五十二年九月十七日牧水四十九回忌

広丘歌碑保存会建之

協力者

百瀬重雄

吉江親正

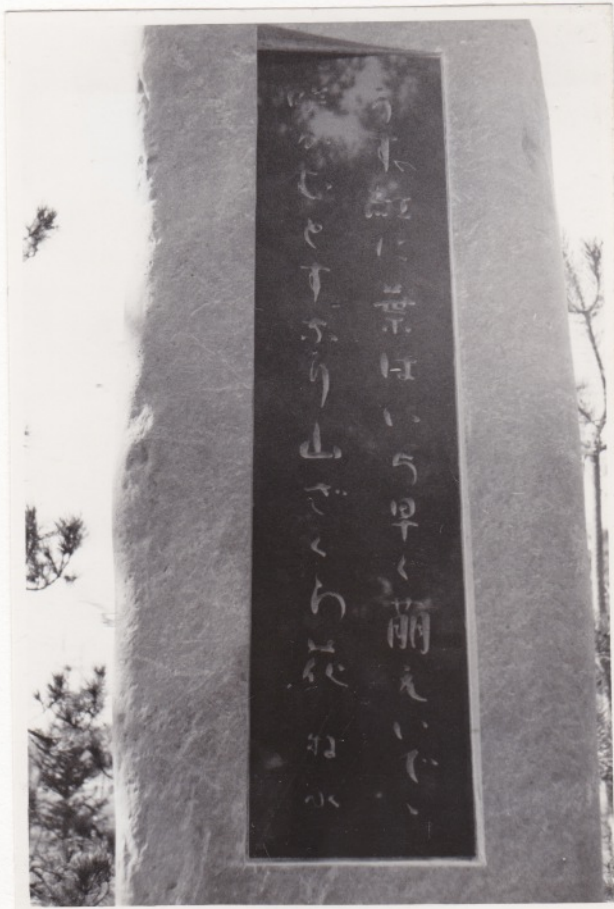
塚田吉治

台石町野守

内閣公刊第

くすはえ前 > 早さ

木芽 芥さ > ち山



若山喜志子・四賀光子・潮みどり歌碑

所在地 長野県塩尻市広丘原新田 歌碑公園内

秋年々の

つゆくさの花

鉢伏の

光子

山を大きく

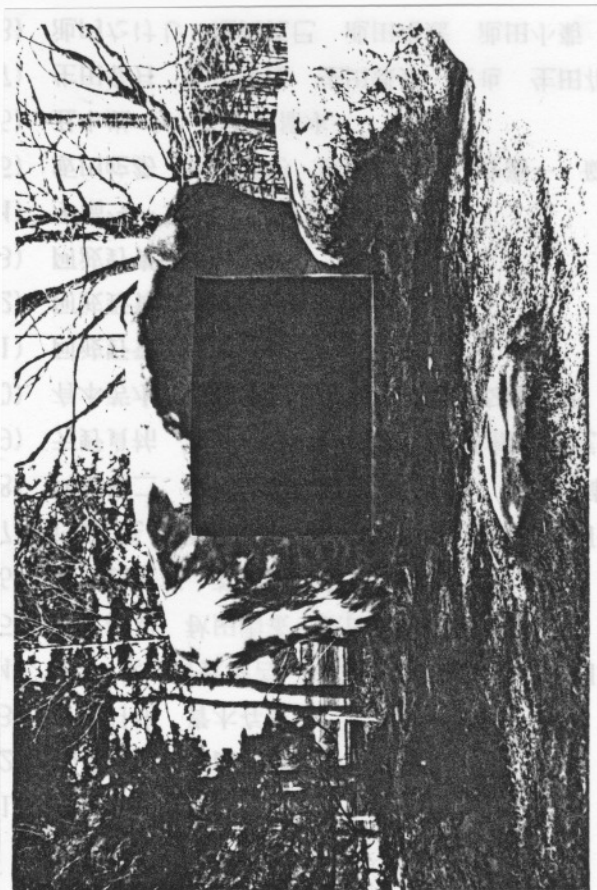
野にすゑて

春鳥の いかるかの聲 うらかなし

芽ふきけふらふ 木立の中に 喜志子

いく重やまみやまの奥の山をくら

松にまじりて映きいでにけり みどり



昭和五年六月三日建之

女流三歌人歌碑建立委員会

寄贈 自然石

朝日村

若山喜志子・四賀光子・潮みどり歌碑

所在地 長野県塩尻市広丘原新田 歌碑公園内

秋 年 々 の

つ ゆ く さ の 花

鉢 伏 の

光 子

山 を 大 き く

野 に す ゑ て

春 鳥 の い か る か の 聲 う ら か な し

芽 ふ き け ふ ら ふ 木 立 の 中 に 喜 志 子

い く 重 や ま み や ま の 奥 の 山 ざ く ら

松 に ま じ り て 咲 き い で に け り み どり

碑陰

昭和五十年六月二十二日建之

女流三歌人歌碑建立委員会

寄贈 自然石

朝日村

若山喜志子歌碑

所在地 長野県塩尻市広丘吉田 旧公民館前庭

喜志子

台石の裏側

新しきいのち育くむと

若山喜志子歌碑

雀らはちる花ひらも

建立委員会

くひもちはこふ

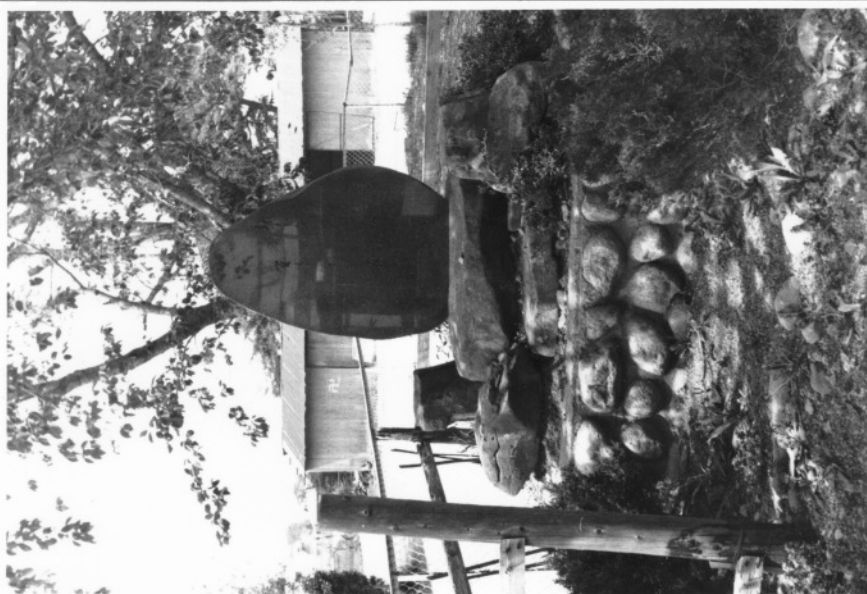
区 長 婦人会
区政委員 民生委員
公民館長 農協役員
老人多多 宮総代
農業委員 消防団
保育園 保護者会
小中学校 P.T.A
吉田区寄附者一同

碑陰

若山喜志子女史は明治二十一年五月広丘吉田田谷太田清人氏の四女として生れ幼少の頃より和歌を善くし女流文壇に異才を放ち二十五才の時歌人若山牧水に嫁ぎ短歌雑誌「創作」に力を合せ牧水没後之を主宰し女流歌人の第一人者として日本文化に貢献すること大なり昭和七年吉田保育園改築に当り之が記念揮毫をお願いしたところ快く幼児保育にふさわしい表記の歌を贈つていただき郷土が生んだ歌人の遺徳を後世に伝えるために茲に歌碑を建立する

昭和四十五年三月八日

赤津道雄記



若山喜志子歌碑

所在地 長野県塩尻市広丘吉田 旧公民館 前庭

喜志子

新しきいのち育くむと

雀らはちる花ひらも

くひもちはこふ

台石の裏側

若山喜志子歌碑

建立委員会
区 長 婦 人 会
区政委員 民生委員
公民館長 農協役員
老人クラブ 宮 総 代
農業委員 消 防 団
保 育 園 保 護 者 会
小 中 学 校 PTA
吉田区寄付者一同

碑陰

若山喜志子女史は明治二十一年五月広丘吉田田谷太田清人氏の四女として生れ幼少の頃より和歌を善くし 女流文壇に異才を放ち 二十五才の時歌人若山牧水に嫁ぎ短歌雑誌「創作」に力を合せ牧水没後之を主宰し 女流歌人の第一人者として 日本文化に貢献すること大なり 昭和二十七年吉田保育園改築に当り之が記念に揮毫をお願いしたところ快く幼児保育にふさわしい表記の歌を贈っていただきました

郷土が生んだ 歌人の遺徳を 後世に伝えるために
茲に歌碑を建立する

昭和四十五年三月八日

赤津道雄記

岩山喜志千燐軒

岩山喜志千燐軒 岩山喜志千燐軒 岩山喜志千燐軒



若山牧水歌碑

所在地 長野県東筑摩郡麻績村 聖(ひと)高原

山に入り雪の中なる

朴の木に

から松に何と

ものを言ふべき

牧水 詠

喜志子書

碑陰右側

碑面の歌は牧水が若かりし頃

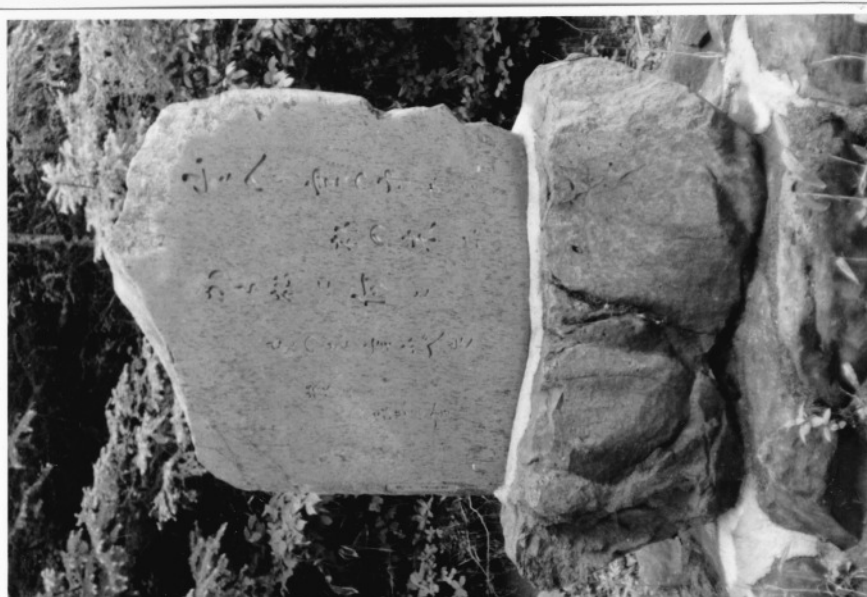
麻績の地を訪れて詠まれたものである

昭和二十九年七月二十日、麻績村を巡る

麻績村長 宮下士義記

碑陰左側

若山牧水は明治十八年八月二十四日宮崎県に生まれた郷党の間では早くからその文才と歌才と認められた明治三十七年四月上京し早稲田大学に学び尾上柴舟の門に入り精進し歌の道を究めた雑誌「創作」を主宰し後進の誘導に努めた遍く全国各地並びに朝鮮を歴訪し自然に親しみ人情を解しその秘奥に徹した作品夥しく牧水全集歌集紀行の書など数多の著作を世に送り喜志子夫人とともに大いに日本文化に貢献した昭和三年九月七日沼津千本浜の自宅にて四十五才の生涯を閉じた



若山牧水歌碑

所在地 長野県東筑摩郡麻績村 聖（ひじり）高原

山に入り雪の中なる

朴の木に

から松に何と

ものを言ふべき

牧水詠

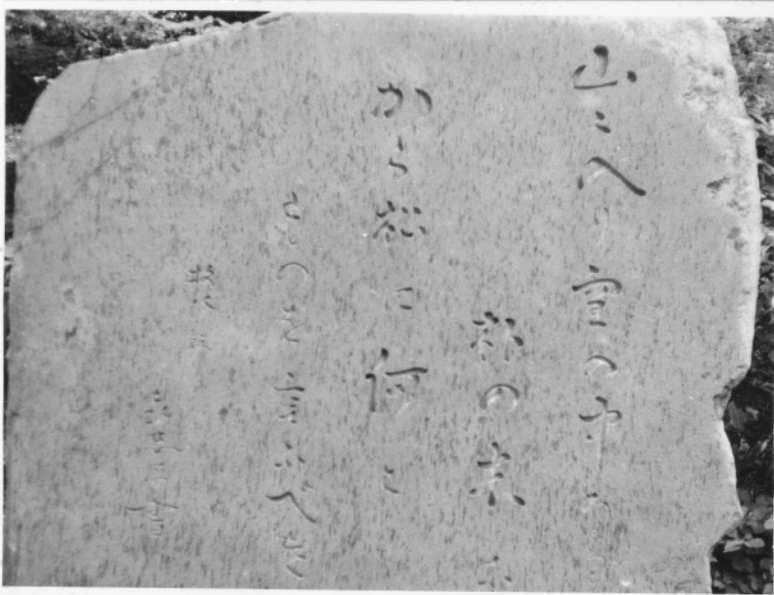
喜志子書

碑陰左側

若山牧水は 明治十八年八月二十四日 宮崎県に生まれた
郷党の間では 早くから 其の文才と歌才とが認められた 明治三十七年四月
上京し 早稲田大学に学んだ 尾上柴舟の門に入り 精進し歌の道を
究めた 雑誌「創作」を主宰し後進の誘導に努めた
遍く全国各地並びに朝鮮を歴訪し 自然に親しみ 人情を解し
その秘奥に徹した作品夥しく 牧水全集 歌集 紀行の書など
数多の著作を世に送り 喜志子夫人とともに大いに日本文化に
貢献した
昭和三年九月十七日 沼津千本浜の自宅にて 四十五才の生涯を閉じた

碑陰右側

碑面の歌は牧水が若かりし頃
麻績の地を訪れて詠まれたものである
昭和二十九年七月二十日 麻績村之を建つ
麻績村長 宮下土義記



若山喜志子歌碑

所在地 長野県松本市芳川区村井 J R村井駅前

喜志子詠

ゆるるそこの

信濃道を遠み

秋こそこの

りんだうの花

摘むによし

なし

碑陰

若山喜志子先生本姓太田氏廣丘村字
吉田ニ生レ芳川村村井小學校ニ學ブ
幼ニシテ顯悟長シテ短歌ヲ善クス歌
人若山牧水ニ嫁シ短歌雜誌「創作」ニ力
ヲ協セ牧水歿後之ヲ主幸シ傍文藝ノ
著述ニ従フ洵ニ現代女流歌壇ノ第一
人者ニシテ日本文化ニ貢獻スル所少
シトモズ先生本年還暦ヲ迎フルニ當
リ郷党ノ門弟並ビニ有志相謀リ先生
ノ秀歌ヲ石ニ刻ミ其歌風ヲ昂揚シ併
セテ之ヲ不朽ニ傳ヘントス

昭和三十一年五月二十七日

創作 村井支社友一同

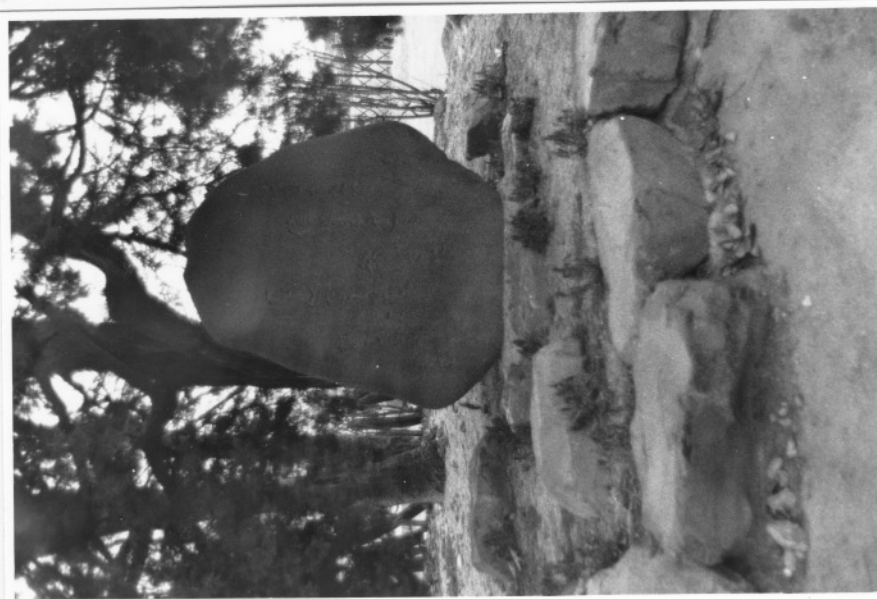
歌碑建設者 郷黨其他全國關係者

創作 全國 社友有志

表 若山喜志子先生筆

裏 新家園面氏筆

撰文 村田四郎氏



若山喜志子歌碑

所在地 長野県松本市芳川区村井 JR村井駅前

喜志子詠

ふるさとの

信濃を遠み

秋くさの

りんだうの花は

摘むによし

なし

碑陰

若山喜志子先生本姓太田氏廣丘村字吉田ニ生レ芳川村村井小學校ニ學ブ幼ニシテ穎悟長ジテ短歌ヲ善クス歌人若山牧水ニ嫁シ短歌雑誌「創作」ニ力ヲ協セ牧水歿後之ヲ主宰シ傍文藝ノ著述ニ従フ洵ニ現代女流歌壇ノ第一人者ニシテ日本文化ニ貢獻スル所少シトセズ先生本年還暦ヲ迎フルニ當リ郷党ノ門弟並ビニ有志相謀リ先生ノ秀歌ヲ石ニ刻ミ其歌風ヲ昂揚シ併セテ之ヲ不朽ニ傳ヘントス

昭和二十三年六月二十七日

創作村井支社友一同

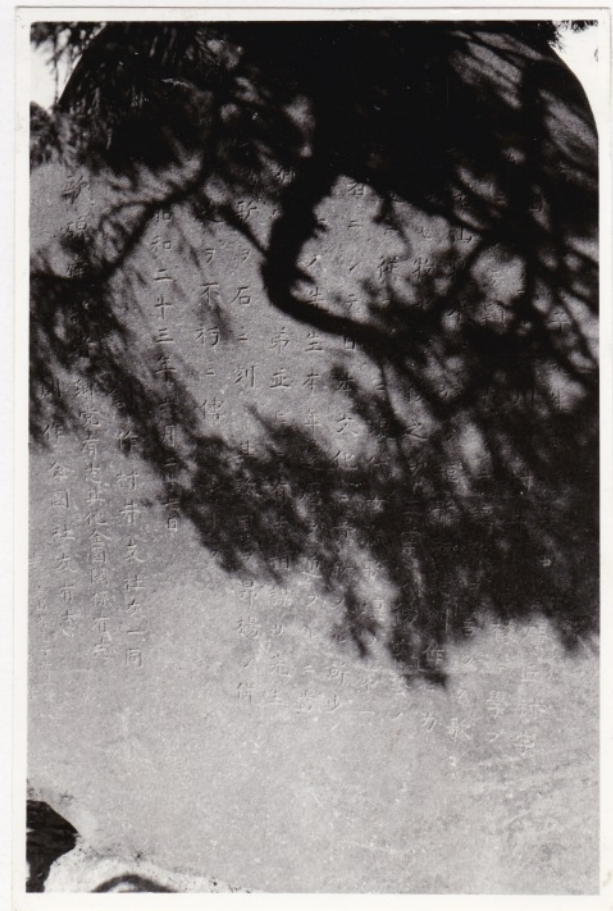
歌碑建設者 郷党有志其他全國關係有志

創作全國社友有志

表 若山喜志子先生筆

裏 新家園面氏 筆

撰文 村田四郎氏



同 一 支 書 文 共 村 寺 境
 志 青 羽 關 圖 全 部 其 志 青 文 關 青 羽 縣 物 類
 志 青 文 書 關 全 部 其 志 青 文 關 青 羽 縣 物 類
 華 土 永 千 志 青 山 莊 集
 華 羽 關 圖 家 傳 集
 羽 關 圖 家 傳 集

若山喜志子歌碑

所在地 長野県松本市芳川区村井 村井公民館前

四ヶ村せんげいまでも

流れてゐるづらか

みなと原 長者屋敷は

夢のまたゆめ

故郷六十五年の昔を今に偲びて
古稀を超えし老嫗の詠める一首

昭和三十六年春

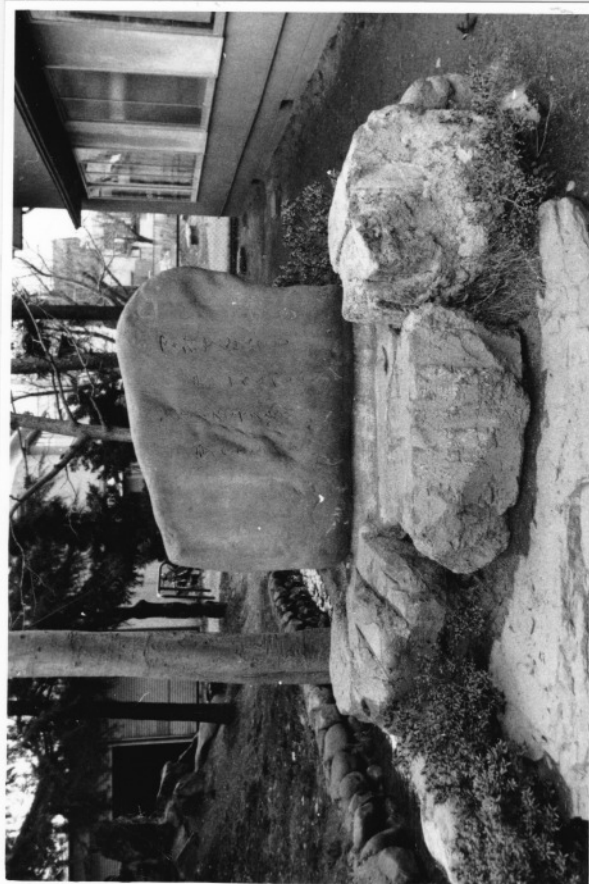
碑陰

村井町上水道は昭和七年五月
創設せられ爾來三十年公共の
福祉に寄與せり昭和三十五年
十二月松本市に移管するに當り
其の代價を以て公民館を建設し
先人の業績を後世に傳えんとす
落成に際し若山喜志子先生
苗郷追慕の歌一首をよせらる
茲に勒し記念とす所以なり

昭和三十一年四月一日

村井町水道組合会
公民館建設委員会

(注) 外字舊の当て字



若山喜志子歌碑

所在地 長野県松本市芳川区村井 村井公民館前

四ヶ村せんげいまも

流れてゐるづらか

みなと原長者屋敷は

夢のまたゆめ

故郷六十五年の昔を今に偲びて
古稀を超えし老嫗の詠める一首

昭和三十六年春

碑陰

村井町上水道は昭和七年五月
創設せられ爾来三十年公共の
福祉に寄與せり昭和三十五年
十二月松本市に移管するに當り
其の代償を以て公民館を建設し
先人の業績を後世に伝えんとす
落成に際し若山喜志子先生
旧郷追慕の歌一首をよせらる
茲に勒し記念とする所以なり

昭和三十六年四月一日

村井町水道組合会

公民館建設委員会一同

(注) 菑は舊の当て字

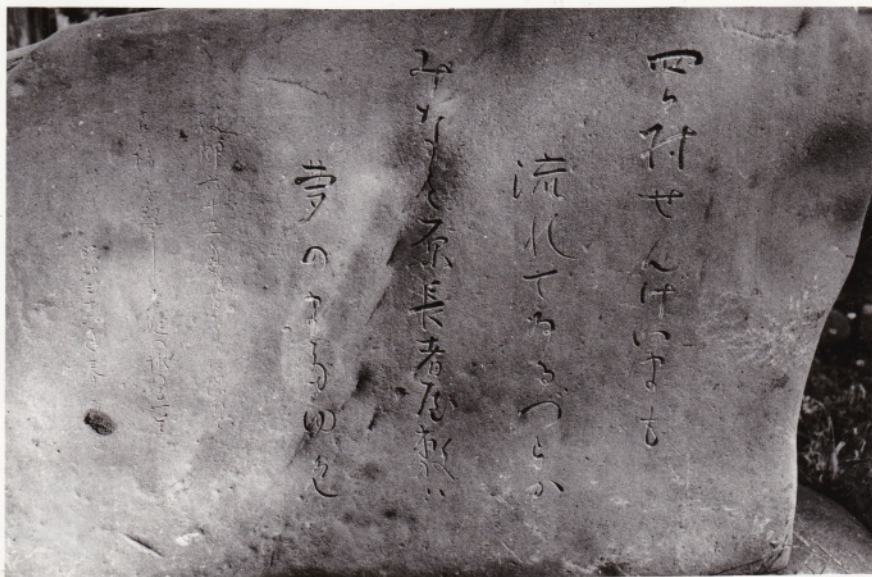


山 寺

山 寺

四

八



若山喜志子歌碑

所在地 長野県松本市崖の湯 バス終点の上の小丘

山にすめは見るものおもふことみな美し

霧の中より雪は降りつゝ 喜志子

碑陰

歌人若山喜志子先生は 昭和二十七年五月
当屋の湯に來られてより 深くこの温泉の
環境を愛好され 以來 昭和四十二年八月
八十一歳にて亡くなるまでの多くの月日をこ
こに過ごされました 依而 ご滞在中の作品
の一首を刻し記念といたします

昭和四十七年十二月三日

若山喜志子先生歌碑建立委員会



若山喜志子歌碑

所在地 長野県松本市崖の湯 バス終点の上の小丘

山にすめは見るものおもふことみな美し

霧の中より雪は降りつゝ 喜志子

碑陰

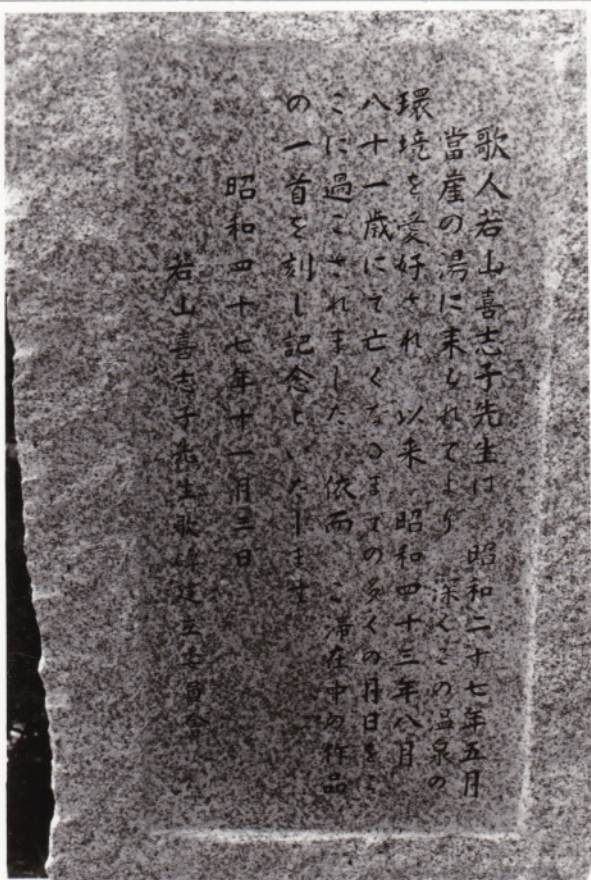
歌人若山喜志子先生は 昭和二十七年五月
當崖の湯に來られてより 深くこの温泉の
環境を愛好され 以來 昭和四十三年八月
八十一歳にて亡くなるまでの多くの月日をこ
こに過ごされました 依而 ご滞在中の作品
の一首を刻し記念といたします

昭和四十七年十一月三日

若山喜志子先生歌碑建立委員会



旧塩尻駅の姿 ←



若山牧水歌碑

所在地 静岡県沼津市 千本松原 林中

幾山河

こゑせりゆかは

寂しきのはてなむ國ぞ

けふる旅ゆく

牧水

左側面

若山牧水歌碑

昭和四年七月

全國有志及門

人建之



若山牧水歌碑

所在地 静岡県沼津市 千本松原 林中

幾山河

こえさりゆかば

寂しさのはてなむ國ぞ

けふも旅ゆく

牧水

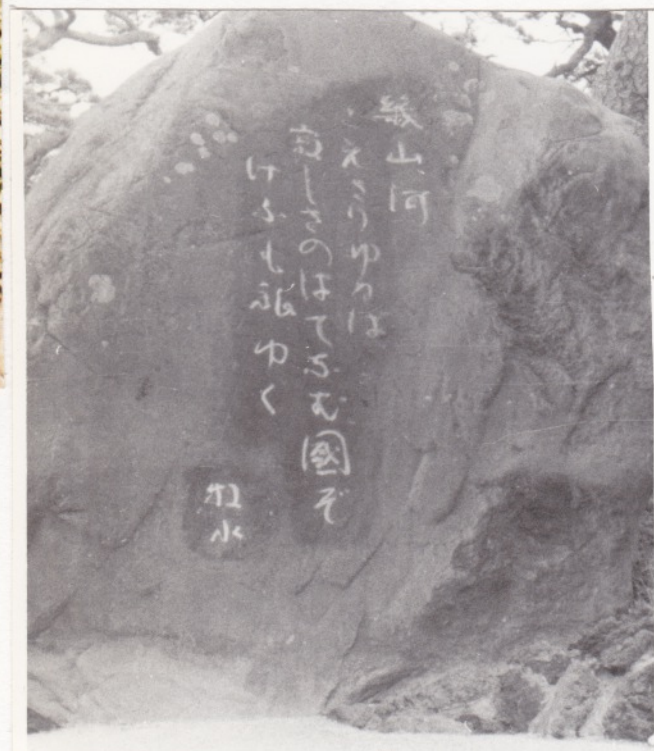
左側面

若山牧水歌碑

昭和四年七月

全國有志及門

人建之



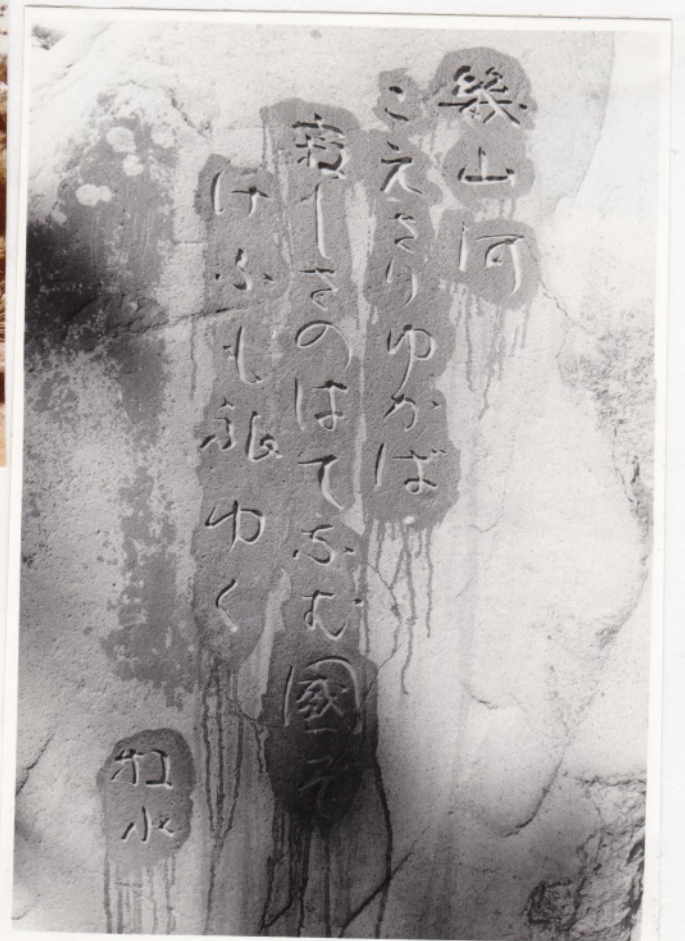


山 昔

奇蹟

幾

幾山何



若山牧水墓誌碑

所在地 静岡県沼津市本字出口三瓦 乗運寺 若山家墓地

牧水略譜

裏面

文字なし

明治十八年八月二十四日 宮崎県 東臼杵郡東郷村
 字坪谷一番戸に医師若山立藏 全七くマキの長
 男として生れ 繁と命名する 長じて十八才のとき
 文学を志望して 牧水と号す 故郷の母マキ 並に
 庭前の坪谷川への追憶に 由来せるものなり
 明治四十五年二十七才に到り太田喜志子と結婚以
 后九年の間に旅人岬子真木子富士人の二男二女を
 挙げ東京に於てその短歌の作風に一家を成せしも
 大正九年に到り年来の希望をこゝ田家の生活を志して
 沼津町在楊原村上香真に居を構み次で大正十二年
 千本浜に移りてよりはるその四囲環境を愛して終生
 こゝを離れず昭和三年に到るその年七月末にはかに
 健康すぐれず九月上旬より臥床全月十七日永眠す
 時に年四十三才なりきその一生は芳醇純乎として
 たゞ 自然への憧憬と讃美に終始し 生を享けて
 四十年余その途をあやまたざりしもの此処にその
 三十三年忌を迎えて之を誌す

昭和三十五年九月十七日 若山旅人
 牧水會



若山牧水墓誌碑

所在地 静岡県沼津市本字出口 335 乗運寺 若山家墓地

牧水略譜

明治十八年八月二十四日 宮崎県東臼杵郡東郷村
字坪谷一番戸に 医師 若山立藏 全じく マキの長
男として生れ 繁と命名する 長じて十八才のとき
文学を 志望して 牧水と号す 故郷の母マキ 並に
庭前の 坪谷川への追憶に 由来せるものなり

明治四十五年二十七才に到り太田喜志子と結婚以
后九年の間に旅人岬子真木子富士人の二男二女を
挙げ東京に於てその短歌の作風に一家を成せしも
大正九年に到り年来の希望たりし田家の生活を志して
沼津町在楊原村上香貫に居を撰み次で大正十三年
千本浜に移りてよりはその四囲環境を愛して終生
こゝを離れず昭和三年に到るその年七月よりにはかに
健康すぐれず九月上旬より臥床全月十七日永眠す
時に年四十三才なりきその一生は芳醇純乎として
たゞ自然への憧憬と 讚美に 終始し 生を享けて
四十年余その途をあやまたざりしもの此処にその
三十三回忌を迎えて之を誌す

昭和三十五年九月十七日

若山旅人
牧水會



裏面

文字なし



富士山



記念館の庭より見た



沼津市千本郷林 1907-11
沼津市若山牧水会館
(昭和62年(1987)秋開館) ↓



若山牧水歌碑・若山喜志子歌碑

所在地 静岡県沼津市本字出口三番 乗運寺 牧水墓前

春里の赤石山のましう雪わがふる春のうみべより見ゆ 喜志子

碑陰

為母喜志子上回忌追善供養建之

昭和五十五年八月十九日 若山旅人

聞きゐつゝたのしくもあるか松風の今は夢ともうつつともきこゆ 牧水

碑陰

為父牧水追善供養建之

昭和五十五年八月十九日 若山旅人



若山牧水歌碑・若山喜志子歌碑

所在地 静岡県沼津市本字出口 335 乗運寺 若山家墓地

春里の赤石山のましろ雪わかゐる春のうみへより見ゆ 喜志子

碑陰

為母喜志子十三回忌追善供養建之

昭和五十五年八月十九日 若山旅人

聞きゐつゝたのしくもあるか松風の今は夢ともうつつともきこゆ 牧水

碑陰

為父牧水追善供養建之

昭和五十五年八月十九日 若山旅人



若山家の墓
左側面

古松院仙翁牧水居士 昭和三年九月十七日 若山牧水
紅雲院芳翁喜樹大姉 昭和十六年十一月十七日 喜志子
香文院信翁喜志大姉 昭和十四年八月十九日 若山喜志子
八十九

若山牧水之墓
百不遍知因心寺梅樹題
左側面

古松院仙翁牧水居士
昭和三年九月十七日歿
行年四十四歳

赤喜山苔・縣郷木野山苔



刻碑

父野木善吉墓



若山牧水歌碑

所在地 静岡県沼津市香貫山 香陵台

香貫山いたゞきに来て五月子とあそび

ひさしくをれば富士はれにけり 牧水

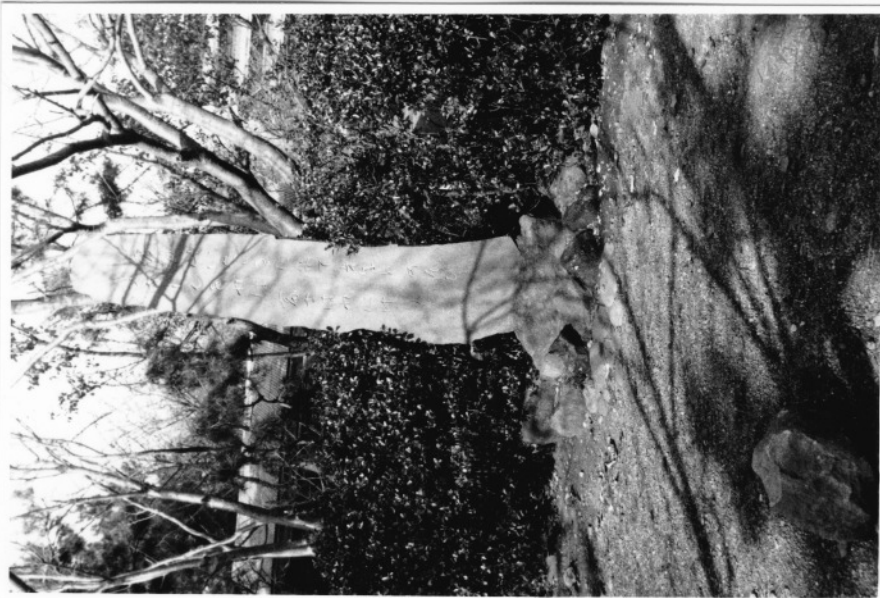
碑陰

歌人 若山牧水は 宮崎県の生れ 沼津の風光を愛し 多年当地に住み昭和三年四十四歳で千本松原の家に長逝した

この歌は大正九年八月東京から香貫山麓に移り住んだ直後の作

昭和三十五年九月十七日 三十三回忌に際して

沼津商工会議所観光部会建之



若山牧水歌碑

所在地 静岡県沼津市香貫山 香陵台

香貫山いたゞきに来て吾子とあそび
ひさしくをれば富士はれにけり 牧水

碑陰

歌人 若山牧水は 宮崎県の生れ 沼津の風光を愛し 多年当地に住み昭和三年四十四歳で千本松原の家に長逝した

この歌は大正九年八月東京から香貫山麓に移り住んだ直後の作

昭和三十五年九月十七日 三十三回忌に際して

沼津市商工会議所観光部会建之





香陵より見た富士山 ←



若山牧水歌碑

所在地 静岡県三島市大宮町二二五 三島神社境内

のずるなる三島のまちのあげ花火

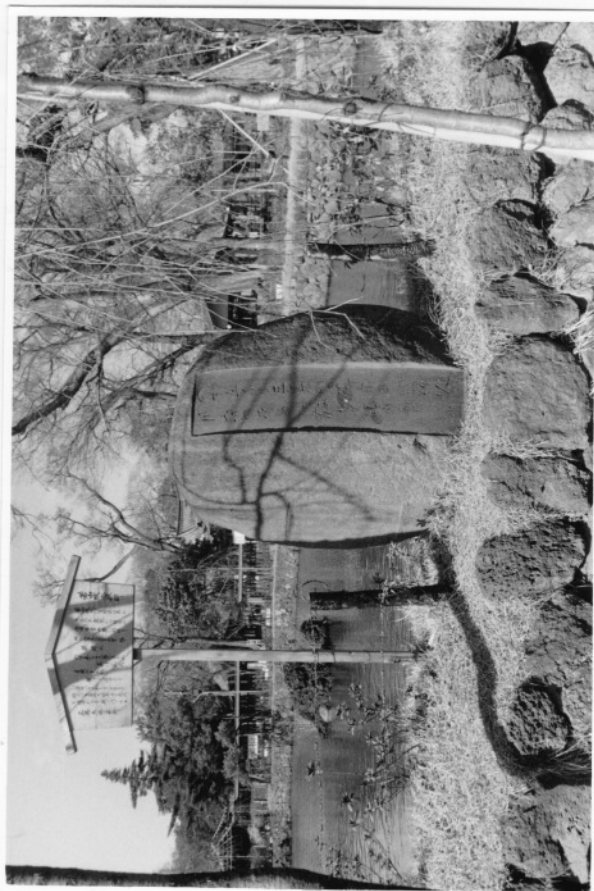
月夜のそらに散りて消ゆなり 牧水

左側面

若山牧水は永く沼津市に住み
大正十五年八月三島大社祭典の
花火を遠く見て歌った作

一九五九年二月六日

三島民報社 小西政三建之



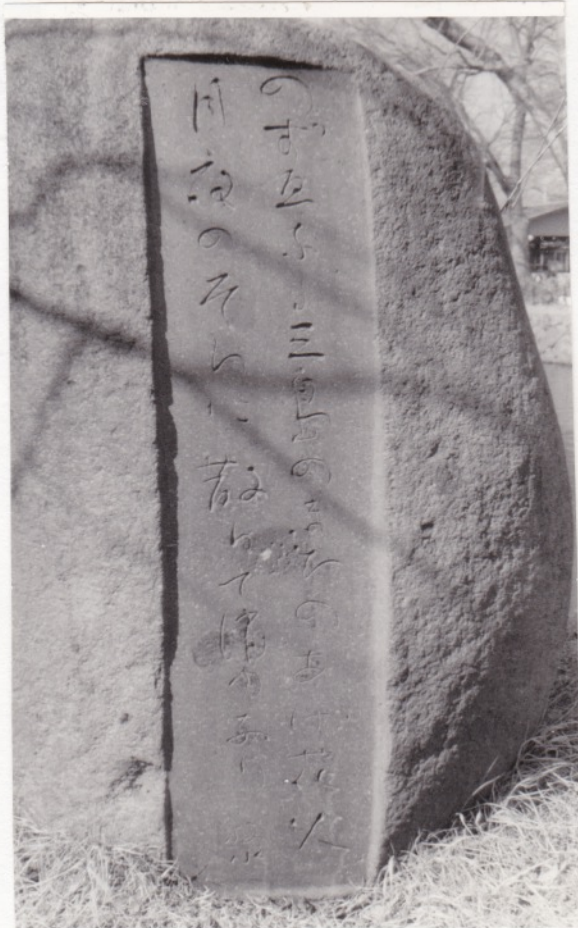
若山牧水歌碑

所在地 静岡県三島市大宮町 2-1-5 三島神社境内

のずゑなる三島のまちのあげ花火
月夜のそらに散りて消ゆなり 牧水

左側面

若山牧水は永く沼津市に住み
大正十五年八月三島大社祭典の
花火を遠く見て歌った作
一九五九年一月六日
三島民報社 小西政三建之





三洲西三 小西三三

株



若山牧水歌碑

所在地 静岡県三島市 桜川畔（水上通り）

若山牧水

宿はづれを清らかな川が流れ、
其処の橋から富士がよく見えた。
沼津の自分の家からだ
その前山の愛鷹山が
富士の半ばを隠してゐるが、
三島に來ると愛鷹はずっと左に寄つて、
富士のみがおほらかに仰がれるのであつた。
克明に晴れた朝空に、
まったく眩いほどにその山の雪が輝いてゐた。

「箱根と富士」（大正九年作）より

碑陰
文字なし



詩
若山牧水歌碑

所在地 静岡県三島市 桜川畔（水上通り）

若山牧水

宿^{しゆく}はづれを清らかな川が流れ、
其処の橋から富士がよく見えた。
沼津の自分の家からだと
その前山の愛鷹^{あしたか}山が
富士の半ばを隠してゐるが、
三島に來ると愛鷹はずっと左に寄って、
富士のみがおほらかに仰がれるのであった。
克明に晴れた朝空に、
まったく眩いほどにその山の雪が輝いてゐた。

「箱根と富士」（大正九年 作）より

碑陰

文字なし



若山牧水歌碑

所在地 静岡県駿東郡清水町 本城山公園内

牧 水

あはる
天地のこころ

あらはにあらはれて

輝けるかも

富士の高嶺は
なる ぬ

碑陰

文字なし

昭和二年作



若山牧水歌碑

所在地 静岡県駿東郡清水町 本城山公園内

牧 水

あめ ちの ところ
天 地 の こ こ ろ

あらはにあらはれて

輝けるかも

富士の たか ね
富 士 の 高 嶺 は

昭和二年作

碑陰

文字なし



若山牧水歌碑

所在地 静岡県裾野市佐野三五一 鈴木浚一氏宅前の国道沿い

麦の秋

若山牧水

碑陰

麦の穂の風にゆれたつ音聞ゆ雀つばくら啼き
しきるなかに

うちわたすこの麦畑のゆたかなるさまをし見
れば夏たけにけり

熟麦のうれとほりたる色深し葉さへ莖さへう
ち染りつゝ

うれ麦の穂にすれすれにつばくらめまひをり
て空に雲雀群れ啼く

刈麦を積みあふらせて荷車のひとつ行くなり
この野の路を

たち寄れば麦刈にけふ出で行きて留守てふ友
が門の柿の花

「麦の秋」は、牧水先生他界
直前、此の地にての作。

歌の中に友とある、秋灯・鈴
木浚一、生前の交遊を懐かしみ

其の柿の木の傍に之を建つ

昭和五十五年四月

協賛 裾野図書館短歌会



若山牧水歌碑

所在地 静岡県裾野市佐野 275-1 鈴木浚一氏宅前 国道沿い

麦の秋

若山牧水

麦の穂の風にゆれたつ音聞ゆ雀つばくら啼き
しきるなかに

うちわたすこの麦畑のゆたかなるさまをし見
れば夏たけにけり

熟麦のうれとほりたる色深し葉さへ莖さへう
ち染りつゝ

うれ麦の穂にすれすれにつばくらめまひをり
て空に雲雀群れ啼く

刈麦を積みあふらせて荷車のひとつ行くなり
この野の路を

たち寄れば麦刈にけふ出で行きて留守てふ友
が門の柿の花

碑陰

「麦の秋」は、牧水先生他界
直前、此の地にての作。

歌の中に友とある、秋灯・鈴
木浚一、生前の交遊を懐かしみ

其の柿の木の傍に之を建つ

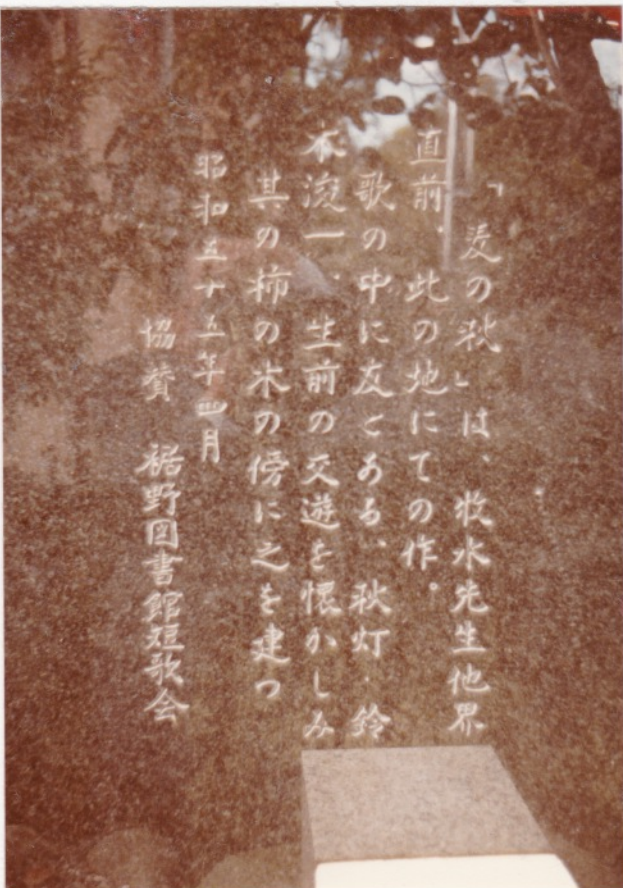
昭和五十五年四月

協賛 裾野図書館短歌会

（右）前田一樹木像



（左）前田一樹木像
（右）前田一樹木像



若山牧水歌碑

所在地 静岡県裾野市佐野 中央公園内

富士が嶺や

すそのに來り仰ぐとき

いよゝ親しき

山にぞありける 牧水

碑陰

昭和三年六月建之
裾野市文化協会
裾野 三木三三
裾野青年會議所
裾野市有志



若山牧水歌碑

所在地 静岡県裾野市佐野 中央公園内

富士が嶺や

すそのに來り仰ぐとき

いよゝ親しき

山にぞありける 牧水

碑陰

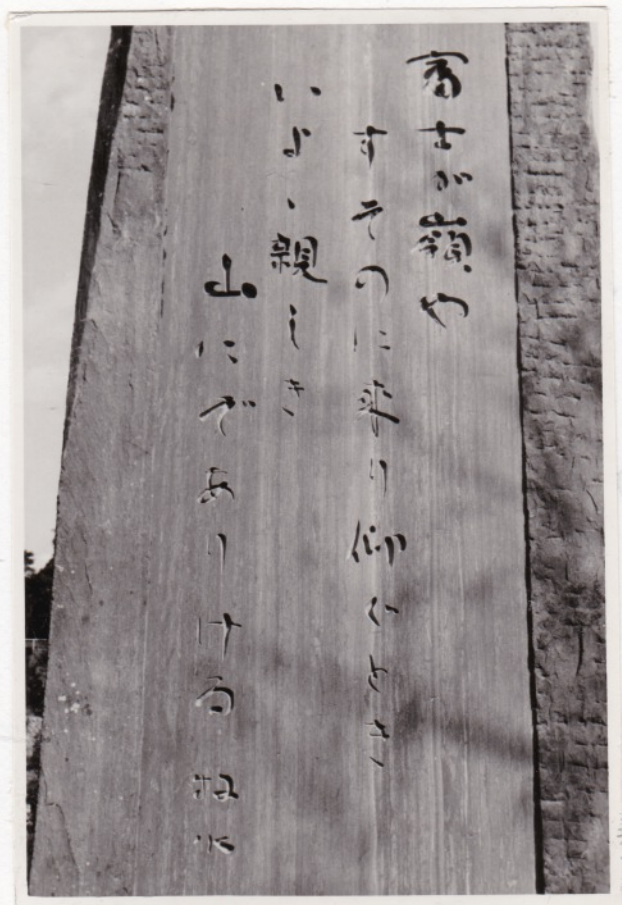
昭和五十年六月建之

裾野市文化協会

裾野ライオンズクラブ

裾野青年会議所

裾野市有志



中央公園と五竜の滝
 ←

若山牧水歌碑

所在地 静岡県裾野市須山 東和電気工事(株)露養所(旧水郷裏)

日をひと日富士をまとも

に仰ぎ来てこよひを泊る

野のなかの村 牧水

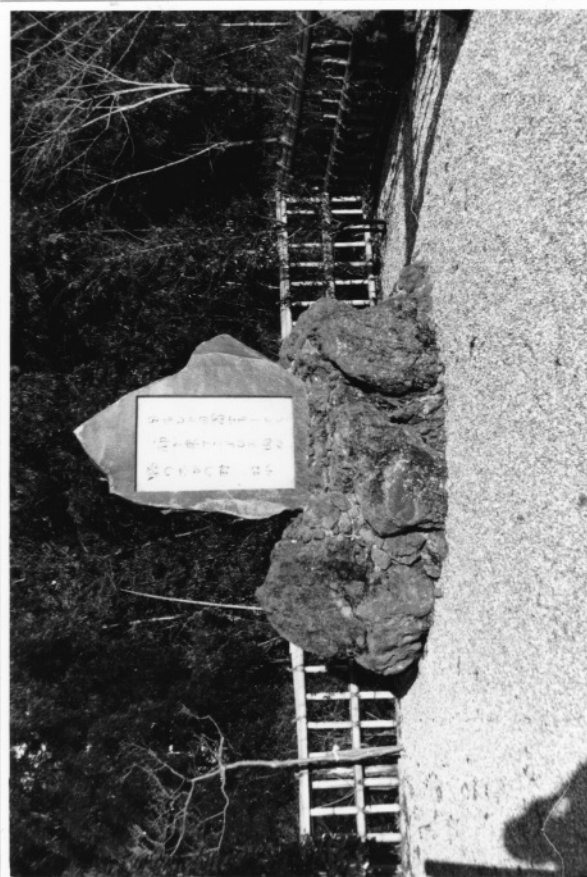
碑陰

若山牧水先生は 大正九年十月九日
と大正十一年五月十四日当館に宿泊し
た その折の作歌を大悟法利雄先生の
指導で歌碑とした

昭和三十三年十月九日

清水 館

野田達郎



若山牧水歌碑

所在地 静岡県裾野市須山 東和電気工事（株）現場事務所（旧清水館）裏側

日をひと日富士をまとも
に仰ぎ来てこよひを泊る
野のなかの村 牧水

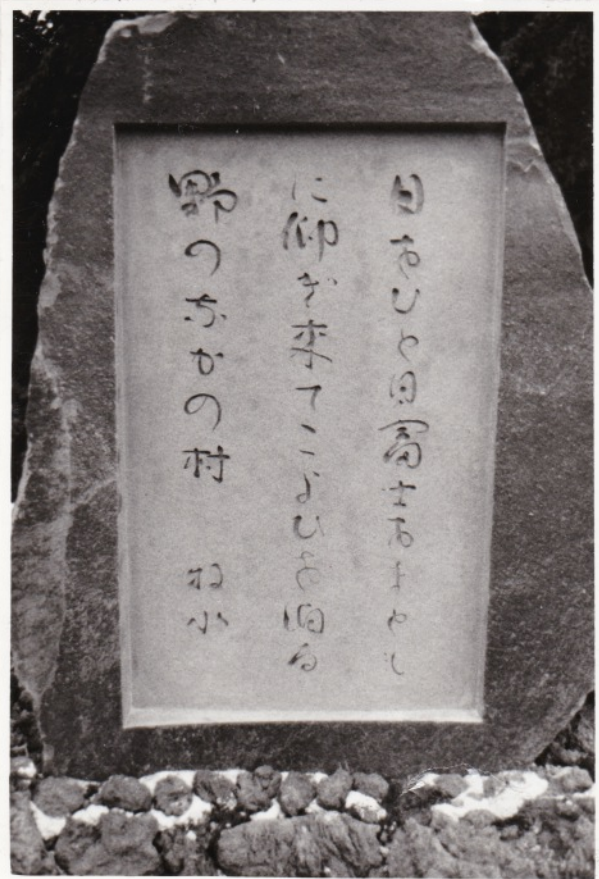
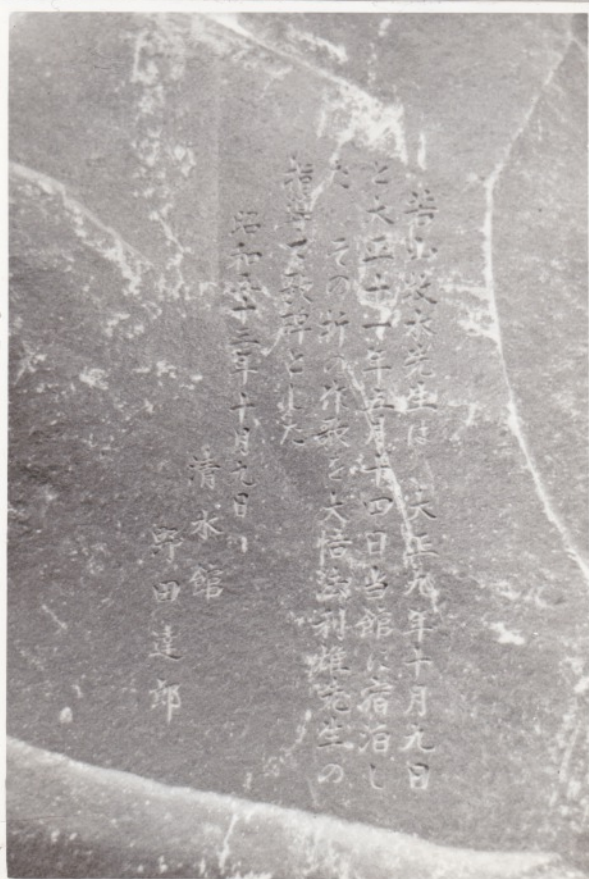
碑陰

若山牧水先生は 大正九年十月九日
と大正十一年五月十四日当館に宿泊し
た その折の作歌を大悟法利雄先生の
指導で歌碑とした

昭和五十三年十月九日

清水館

野田達郎



若山牧水歌碑

所在地 静岡県裾野市須山三五一元 富士山資料館前

なびき寄る

碑陰

雲のすがたの

昭和五十三年十二月

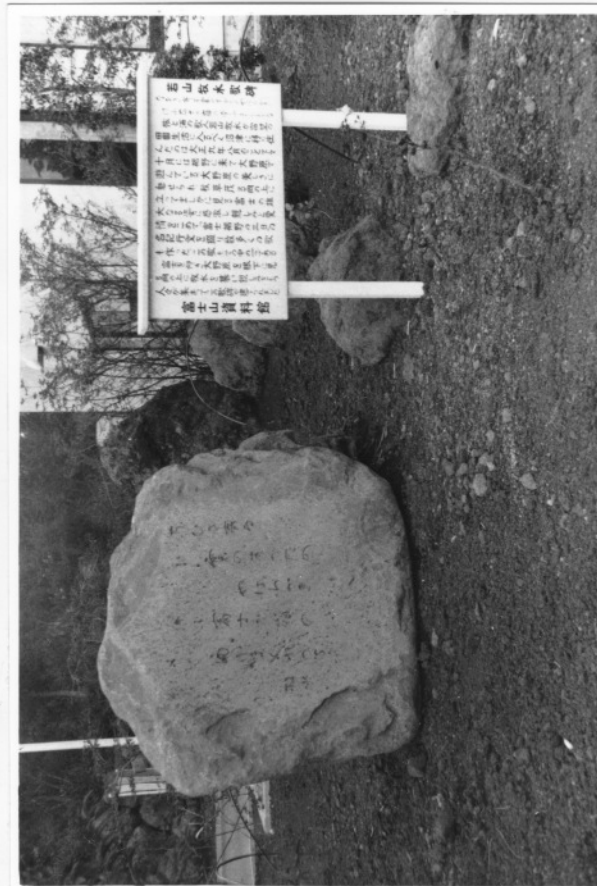
裾野市文化協会 建之

やはらかな

けふ富士が嶺の

ゆをちぐれかな

牧水



若山牧水歌碑

所在地 静岡県裾野市須山 2255-39 富士山資料館前

なびき寄る

雲のすがたの

やはらかき

けふ富士が嶺の

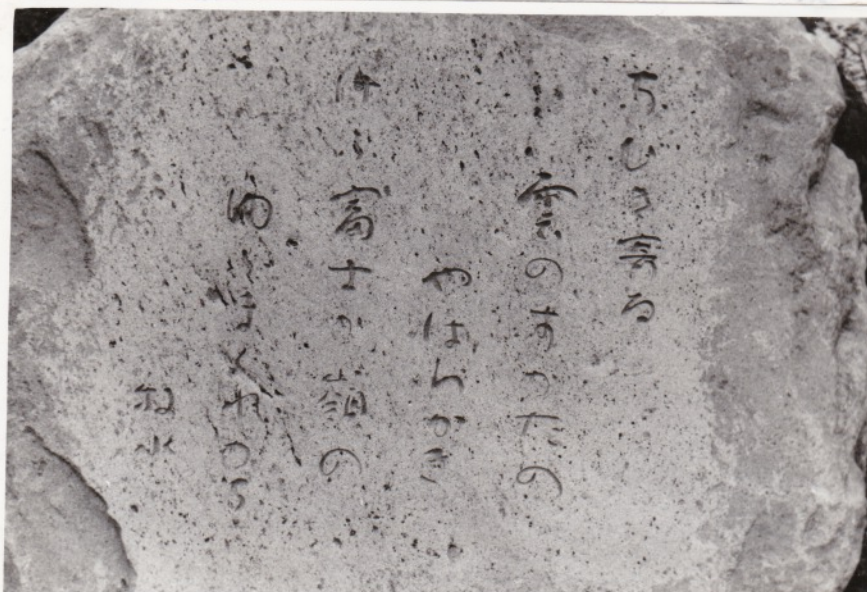
ゆふまぐれかな

牧水

碑陰

昭和五十三年十二月

裾野市文化協会 建之



若山牧水歌碑

なびき、奇る雲のすがたのやはらかき
けふふせが宿のゆくまゝくれりな
旅と酒の歌人若山牧水が宿望の
田園生活に入るべく沼津に移り住
んだのは大正九年八月のこととそ
十月には裾野に来て大野原で
遊んでいる大野原の美しさに
魅せられ、秋草茂る岡の上に
立つてまじかに見る富士の雄
大なる姿に感激し、親しみと愛
情をこめて「富士裾野の三日」の
名紀行文を綴り、数多くの歌
も作った。この歌もその中の一つである
「富士を仰ぎ大野原を眼下に見
る岡の上に牧水を慕い親しみをもち
人々が集まってこの歌碑が建てられた」

富士山資料館

若山牧水歌碑

所在地 静岡県田方郡函南町 畑毛温泉 多目的集会所前

長湯して 飽かぬこの湯の

ぬるき湯に ひたりて安き

こころなりけり 牧水

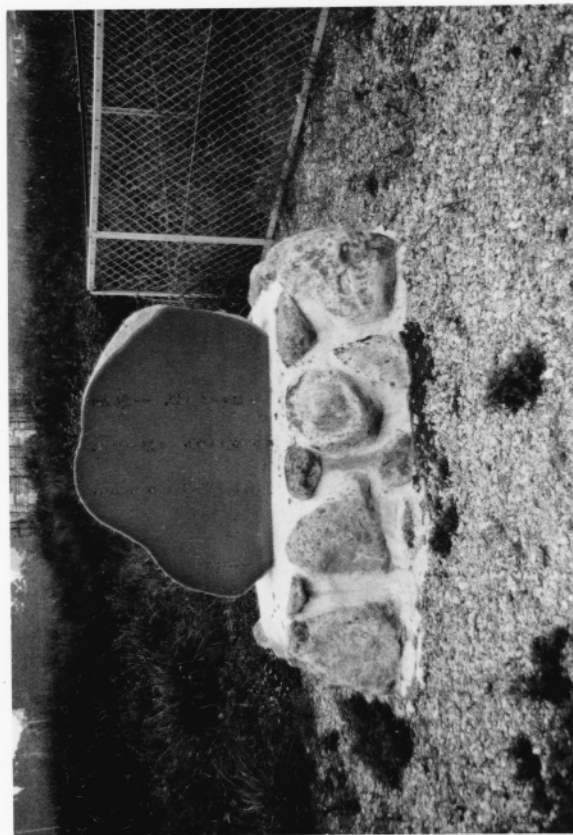
碑陰

文字なし

旅人書

昭和三十三年十月吉日

函南町文化協会建之



若山牧水歌碑

所在地 静岡県田方郡函南町 畑毛温泉 多目的集会所 前

長湯して飽かぬこの湯の
ぬるき湯にひたりて安き
こころなりけり 牧水

旅人書

昭和六十三年十月吉日
函南町文化協会建之

碑陰

文字なし



若山牧水歌碑

所在地 静岡県田方郡天城湯ヶ島町 西平の小丘上 牧水園

うす紅に葉はいち早く

もえいでて

そかむとすなり山ざくら花

牧水

碑陰

制作デザイン
河村貞之

吊橋のゆるるあやふき渡りつつおほつがなく
も見し山ざくら

とほ山の峰越の雲のかがやくや峰のこなたの
山ざくら花

瀬走るやまめうぐひのうろくずの美しき頃
の山ざくら花

山ざくら散りのこりゐてうす色にくれなぬふ
ふむ葉のいろぞよき

副碑

撰文

大正九年夏、東京から沼津に移った歌人若山牧水は、ふるさと日向を思わせる湯ヶ島温泉の風物を深く愛し昭和三十二年に没するまで後期の清澄な自然詠の代表作たる数々の名作を遺した。この歌碑には、大正十一年、三十六歳の春の「山ざくら」(歌集「山桜の歌」所載)一連二十三首中の五首を録した。第一首は大正十四年の筆跡。

大悟法利雄

裏面

文字なし



若山牧水歌碑

所在地 静岡県伊豆市天城湯ヶ島町 西平の小丘上 牧水園

うす紅に葉はいち早く

もえいでて

さかむとすなり 山ざくら花

牧水

碑陰

吊橋のゆるるあやふき渡りつつおぼつかなく
も見し山ざくら

制作デザイン
河村貞之

とほ山の峰^{をこし}越の雲のかがやくや峰のこなたの
山ざくら花

瀬^せ瀬^せ走るやまめうぐひのうろくずの美しき頃
の山ざくら花

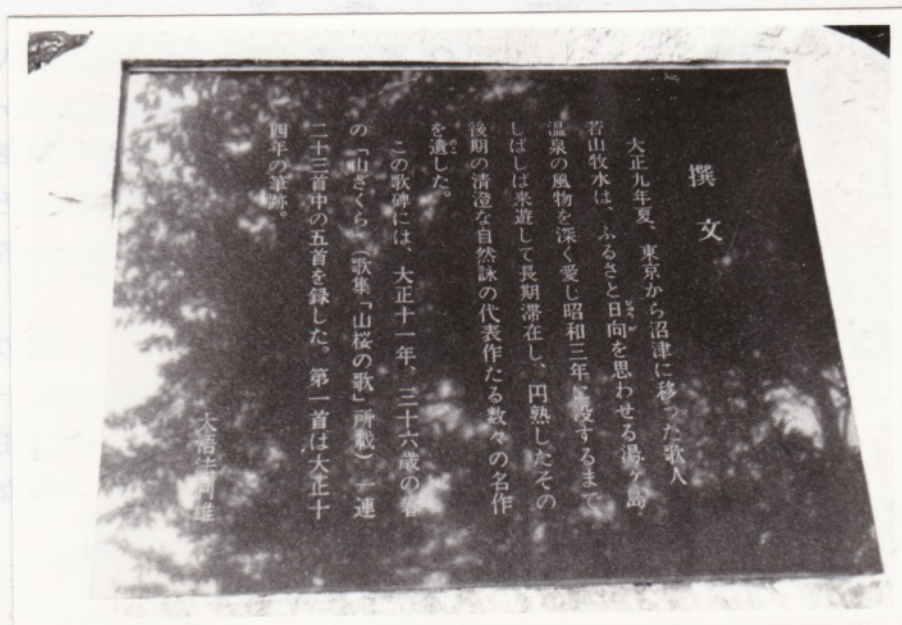
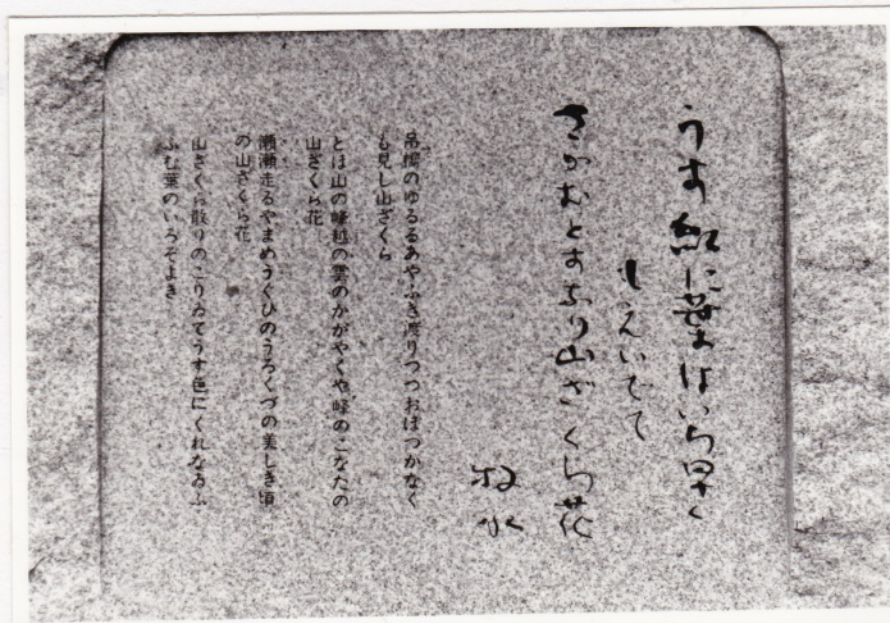
山ざくら散りのこりゐてうす色にくれなゐふ
ふむ葉のいろぞよき

副碑

撰文

大正九年夏、東京から沼津に移った歌人
若山牧水は、ふるさと日向を思わせる湯ヶ島
温泉の風物を深く愛し昭和三年に没するまで
しばしば来遊して長期滞在し、円熟したその
後期の清澄な自然詠の代表作たる数々の名作
を遺した。

この歌碑には、大正十一年、三十六歳の春
の「山ざくら」（歌集「山桜の歌」所載）一連
二十三首中の五首を録した。第一首は大正十
四年の筆跡。／大悟法利雄／裏面 文字なし



若山牧水歌碑

所在地 静岡県田方郡戸田(三)村戸田 御浜(おほ)公園灯台横

若山牧水

碑陰

昭和五十五年七月 菅沼清一建之

伊豆の国

戸田の港ゆ

船出すと

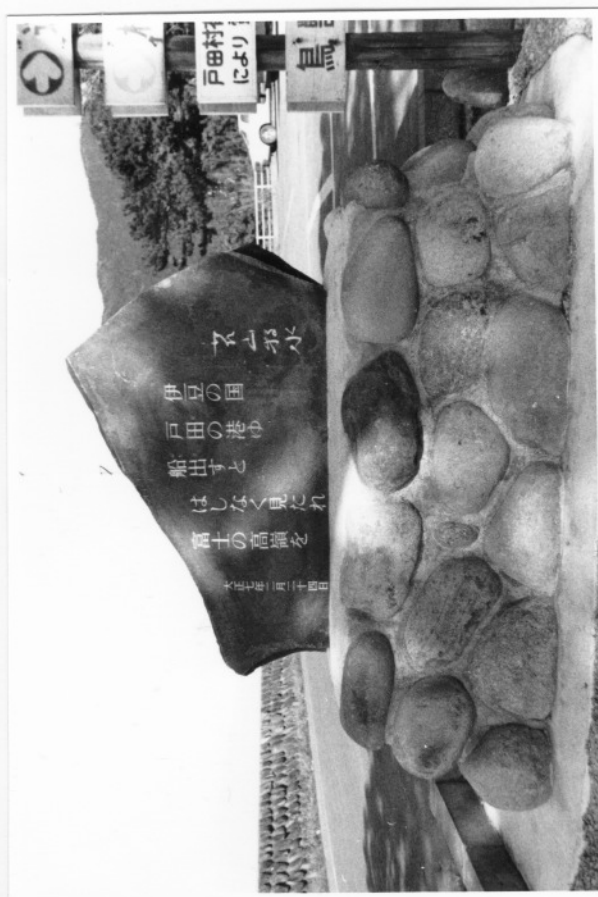
はしなく見たれ

富士の高嶺を

大正七年二月二十四日

略歴

若山牧水 本名 繁 明治十八年八月二十四日 宮崎県東臼杵郡東郷村坪谷に生まれる 早大英文科卒 昭和三年九月十七日歿す 享年四十三歳 法名 古松院仙譽牧水居士 墓は静岡県沼津市出口町三三三 乗運寺 墓地にある
若山喜志子 本名 喜志 明治二十一年五月二十八日 長野県東筑摩郡広丘村に生まれる 村井高小四年卒 昭和四十二年八月十九日歿す 享年八十歳 法名 香文院信譽喜志大姉 墓は牧水と同じ処にある



若山牧水歌碑

所在地 静岡県沼津市戸田（へだ）御浜（おはま）公園 灯台横

若山牧水

伊豆の国

戸^だ田の港ゆ

船^{ふな}で出すと

はしなく見たれ

富士の高嶺を

大正七年二月二十四日

御浜公園
→



碑陰

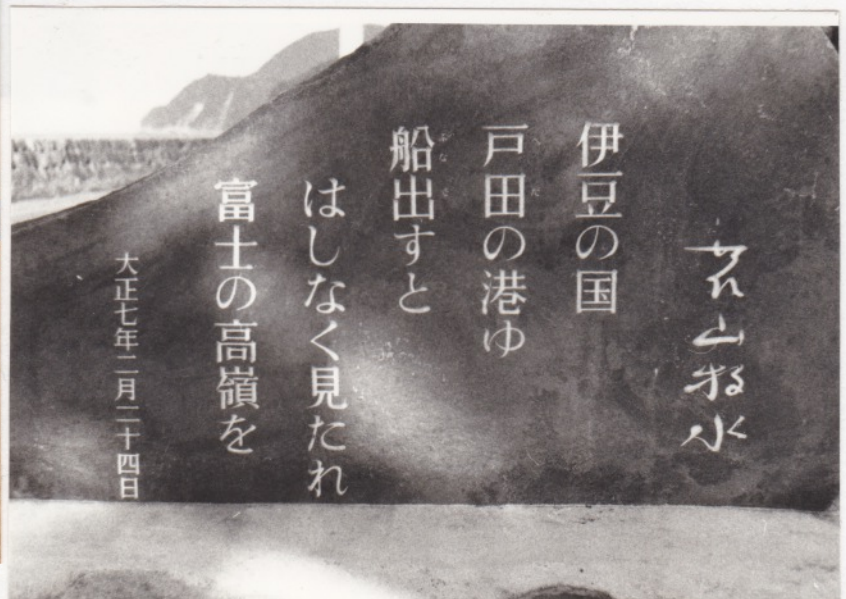
昭和五十五年七月 菅沼清一建之

遠くから見た富士山（快楽船所）



船から見ると戸田の町 ↓





若山牧水歌碑・若山喜志子歌碑

所在地 静岡県田方郡土肥町土肥中浜 「土肥館」前

喜志子

蛙なき

夕さりくれば

かへらまし

かへらまし
といふ

吾子

つれて
きぬ

大正四年

五月十日

わが泊り三日四日つききゐつきたる

この部屋に見る冬草のやま

伊豆土肥温泉

土肥館にて

牧水

碑陰

共に不明

(注) 牧水歌碑 昭和三年建立
喜志子碑 昭和四年建立



若山牧水歌碑・若山喜志子歌碑

所在地 静岡県伊豆市土肥町土肥中浜 「土肥館」前

喜志子

蛙なき
夕さりくれば
かへらまし
かへらまし
といふ
吾子
つれて
きぬ

大正十四年

五月十日

わが泊り三日四日つゞきゐつきたる
この部屋に見る冬草のやま

伊豆土肥温泉

土肥館にて

牧水

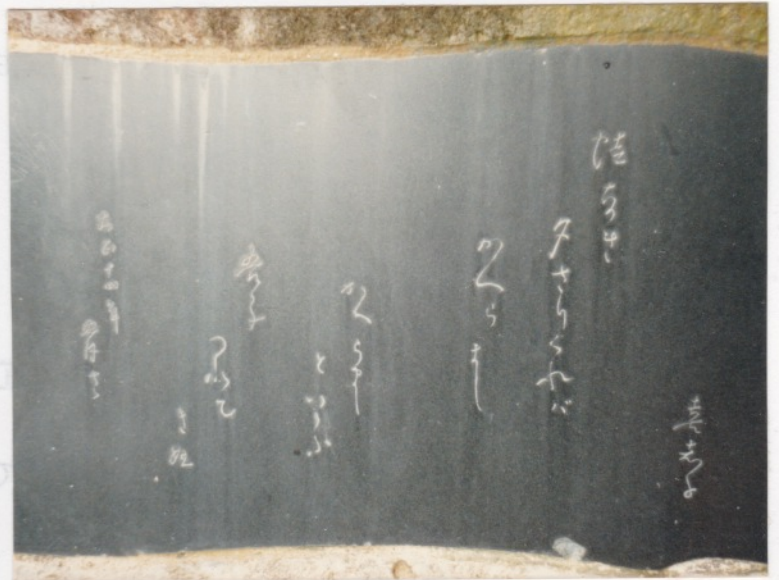
碑陰

共に不明

(注) 牧水歌碑 昭和三十九年 建立

喜志子碑 昭和四十五年 建立





若山牧水歌碑

所在地 静岡県田方郡土肥町土肥 松原公園内

ひそまりて

ひそしく見れば

とほ山の

ひなたの冬木

かぜさわぐらし

牧水

碑陰

文字なし

副碑

若山牧水歌碑

土肥温泉を深く愛した歌人若山牧水は、三十三才の大正七年から土肥温泉にしばしば長期滞在し百数十首の歌を遺したが、この歌は大正七年二月の作で筆蹟はその直後のものである。

昭和五年八月吉日

設計 若山旅人

撰文 大悟法利雄

建設 土肥町観光課

後援 土肥町

施工 沼津 石武



若山牧水歌碑

所在地 静岡県伊豆市土肥町土肥 松原公園内

ひそまりて
ひさしく見れば
とほ山の
ひなたの冬木
かぜさわぐらし
牧水



碑陰

文字なし

副碑

若山牧水歌碑

土肥温泉を深く愛した歌人若山牧水は、三十三才の大正七年から土肥温泉にしばしば長期滞在し百数十首の歌を遺したが、この歌は大正七年二月の作で筆蹟はその直後のものである。

昭和四十五年八月吉日

設計 若山旅人
撰文 大梧法利雄
建設 土肥町観光協会
後援 土肥町
施工 沼津 石松

西伊豆から見た富士山





山 若

創設者

心

心

心

心



ひそまりて

ひさしく見れば

とほ山の

いなたの冬木

かぜそわぐらゝ

ね水



若山牧水歌碑

土肥温泉を深く愛した歌人若山牧水は、三十三才の大正七年から土肥温泉にしばしば長期滞在し、百数十首の歌を遺したが、この歌は大正七年二月の作で筆蹟はその直後のものである。

昭和四十五年八月吉日

設計 若山旅人

撰文 太悟法利雄

建設 土肥町観光協会

後援 土肥町

施主 沼津石武

若山牧水歌碑

所在地 静岡県田方郡土肥町小下田 恋人岬への道途中

海女

ひとみには

露をたぐへつ 副碑

笑む時の

丹の頬のいろは

桃の花にして

若山牧水
「溪谷集」

若山牧水歌碑

碑陰

文字なし

酒と旅を何よりも愛し、自然に親しんだ流浪の歌人若山牧水は、土肥温泉を深く愛し、三十三才の大正七年より、しばしば長期滞在し、百数十種の歌を詠み近代文学に土肥温泉を最初に紹介した人となった。
この歌はこの時に海女を詠んだ連作の中の一つである。

ひとみには 露をたぐへつ 笑む時の
丹の頬のいろは 桃の花にして

若山牧水「溪谷集」
昭和五十九年十月吉日
土肥町観光協会



若山牧水歌碑

所在地 静岡県伊豆市土肥町小下田 恋人岬への道の途中

海女

ひとみには

露をたゝへつ

笑む時の

碑陰

丹の頬のいろは

文字なし

桃の花に

して

若山牧水
「溪谷集」

副碑

若山牧水歌碑

酒と旅を何よりも愛し、自然に親しんだ流浪の歌人若山牧水は、土肥温泉を深く愛し、三十三才の大正七年より、しばしば長期滞在し、百数十種の歌を詠み近代文学に土肥温泉を最初に紹介した人となった。

この歌はこの時に海女を詠んだ連作の中の一つである。

ひとみには 露をたゝへつつ 笑む時の
丹の頬のいろは 桃の花にして

若山牧水「溪谷集」

昭和五十九年十月吉日

土肥町観光協会



若山牧水歌碑

所在地 静岡県賀茂郡松崎町 岩地海岸

藤口書

山ねむるやまの麓に海眠むる

愁しき春の國を旅行く

牧水

碑陰

大正の末葉歌人牧水氏
当地に杖を曳きて此の静か
る景觀を賞でたりけり
昭和四年春五月
岩地観光旅館業組合



若山牧水歌碑

所在地 静岡県賀茂郡松崎町 岩地海岸

藤口書

山ねむるやまの麓に海眠むる

愁しき春の國を旅行く

牧水

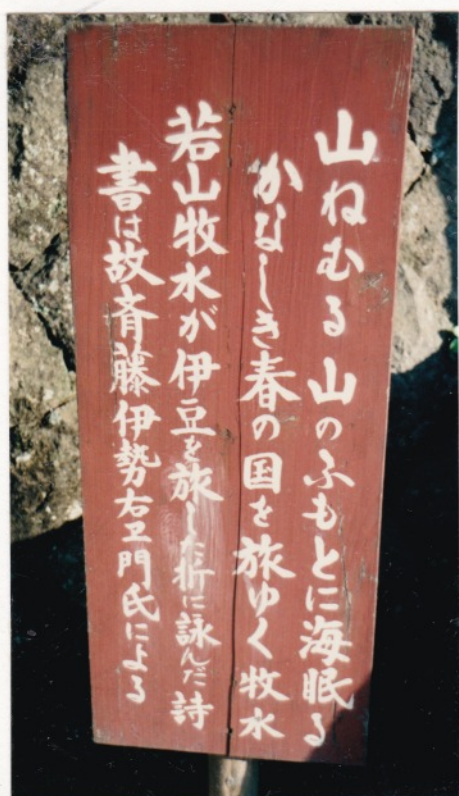
碑陰

大正の末葉 歌人 牧水氏
当地に杖を曳きて此の静かなる
景観を賞でたりけり

昭和四十一年春五月

岩地観光旅館業組合





若山牧水歌碑

所在地 静岡県賀茂郡松崎町牛原山 町民の森頂上

幾年か見ざりし草の石菖の
青み茂れり此処の溪間に

牧水詠 旅人書

碑陰

文字なし

所在地 静岡県下田市須崎 恵比寿島南端

友が守る
灯台はあはれ
わだなかの
蟹めく岩に
白く立ち居り

牧水詠

旅人書

碑陰

若山牧水は大正二年十月二
十八日神戸元島の灯台守で
ある大学時代の学友古賀安
治を訪ねるため渡島し一週
間留つたその折の体験は八
十首余の大作となつて歌集
秋風の歌に収められ又小説
灯台守や小品島三題の一と
なつたわが郷土が大歌人一
よつてまればたことを誇り
としとして永遠に敬慕する
刻みこその地に建てること
した染事は特に桐子若山旅



会

若山牧水歌碑

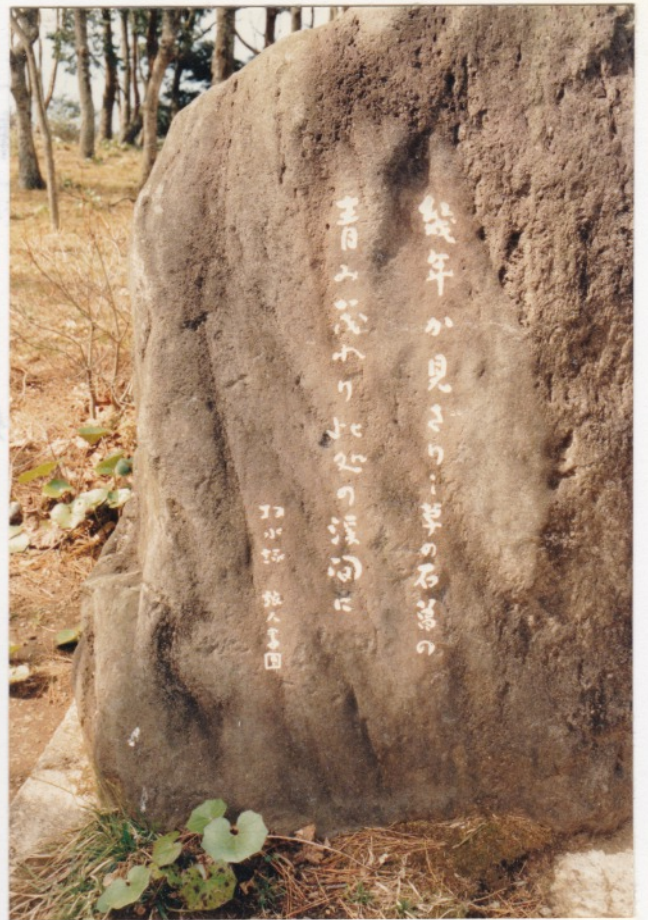
所在地 静岡県賀茂郡松崎町牛原山 町民の森 頂上

幾年か見ざりし草の石菖の
青み茂れり此処の溪間に

牧水詠 旅人書

碑陰

文字なし



若山牧水歌碑

所在地 静岡県下田市須崎 恵比寿島 南端

友 が 守 る

灯 台 は あ は れ

わ だ な か の

蟹 め く 岩 に

白 く 立 ち 居 り

牧 水 詠

旅人書

碑陰

若山牧水は大正二年十月二十八日神子元島の灯台守である大学時代の学友古賀安治を訪ねるため渡島し一週間留ったその折の体験は八十首余の大作となって歌集秋風の歌に収められ又小説灯台守や小品島三題の一となったわが郷土が大歌人によって詠まれたことを誇りとし永遠に敬慕するよすがとしてその中の一首を碑に刻みこの地に建てることにした染筆は特に嗣子若山旅人に請うたものである

昭和五十五年六月一日

下田市歌碑建立発起人会

代表 賀茂短歌会

恵比寿島↓ (碑は反対側にある)

